

第 5 1 回「議員と語ろかい」報告書

産業建設常任委員会（No. 1）

開催日	令和 8 年 5 月 1 4 日（木曜日） 1 9 時 0 0 分 ～ 2 0 時 3 0 分		
開催場所	霧島市役所 議会棟4階 第3、4委員会室		
団体名	個人参加	参加人員	7 人 (男 4 人：女 3 人)
出席議員	藤田直仁、松下太葵、宮内博、仮屋国治、鈴木てるみ、山口仁美、大坪元気、香山二郎【委員外】久木田大和、野村和人、町田和己、塩月大志郎、渡邊圭章		
役割分担	班 長（藤田直仁）副班長（松下太葵）記録係（香山二郎）		
テーマ及び具体的な内容	地域農業の魅力を語ろう		

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

① 農地維持・中山間地域の課題

◆水稻を中心に農業を営んでいる立場から、農業の魅力を維持するための前提として、農地の維持が大切と思う。

中山間地域は小さい農地が多く、個人で仲介業務に対応するのは大変。

事務処理を代行する中間管理の部署を霧島市で作ってほしい。

霧島市でそのような仕組みがあれば耕作者の立場としては魅力がある。

◆スマート農業は補助を受けるのに一定以上の面積など条件が高い。

耕作放棄地が多くなっているが、スマート農業には向かないため、放棄地の維持に予算も回してほしい。

意見交換での主な話題等

② 新規就農・農業経営の現状

◇新規就農を考えている人がいるが、農業従事者の立場から実態はどうか。

◆有機農業はやりがいがあり、子どもに美味しい野菜を食べさせたい気持ちもある。しかし野菜の値段は上げられず経営は苦しい。

「今から農業か」というのが本音。

有機農法にこだわりたいがあまり手はかけられない。

菌ちゃん農法が仕事として成り立つかは疑問がある。現実はずごく厳しい。

イラン情勢の影響によるナフサ不足により、2,500円のビニールマルチが5,000円になったが、野菜の値段が極端に上がっているわけではない。

また、公的支援を受けるにはハードルが高い。市から支援してほしい。

◆自分は有機栽培をしていない。従来農法による水稻メインで営農している。

有機は農薬コストが不要だが、害虫がついても薬を使えず収量が減るため、収益面では不利。従来農法で収入が確立できれば一部を有機栽培にできると思う。

米は全部機械でできるが設備投資が高い。1,000万円を切る機械の方が少ない。

また設備更新も必要。機械のメンテは自分でやってコスト削減している。

昼間は農作業、整備は夜に実施するため、本当は業者に依頼したい。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

③ 有機農業・菌ちゃん農法

◆各家庭が小さい畑を持っていれば良いと思う。物価高、米不足の一助になる。
菌ちゃん農法が広がるような活動を市から発信してほしい。

◇採算性高く有機農法をしている事例はあるか。

◆菌ちゃん農法では約3haの農地で1億4千万円売り上げた。

自分で自給自足できる農法として適している。

1回土をつくると一生使える夢のような農法で、素人でも成功率90%。

菌ちゃん農法から独立して自立している人もいる。

菌ちゃん農法は、木、竹、枯れ草等を菌の餌として育菌する。

空気中の窒素を取り入れるので、肥料として窒素、リン酸、カリは必要ない。

始めて3年だが、今は家庭菜園レベル。

自分の食べものは自分で作ることが目標。

成功事例もあるので、行政で試験的に実施し広めてほしい。

自分の庭でできない人にも貸農園等で広まれば良いと思う。

◆土の中で菌が本来の働きをすることが重要だが、そこまで到達するのがすごく大変。10aぐらいの畑で菌を上手く働かせるのは難しいと感じる。

自分は1/3は有機、2/3は減農薬で運営しているが、有機は草を刈る頻度も多い。全ての農産物を有機でそろえるのは難しい。

◇塩田知事が「稼げる農業」を掲げている。

付加価値を最大限にし、持続可能であることが大切。

◆有機農法を今後も進めていくが、有機JAS認証のハードルは高くコストも高い。認証をとっていなくても有機農業をやっている人がいると知ってほしい。

「非有機」も使ってくればありがたい。

補助を活かせればコストも下がってくるのではと思う。

意見交換での主な話題等

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

意見交換での主な話題等

④ 学校給食・地産地消・消費者ニーズ

◆有機野菜を使う立場だが、完全な有機100%を目指しているわけではない。

「非有機」も含め、地産地消を前提として学校給食に取り入れてほしい。

有機JASの野菜は表示されているので生産者の名前を覚えやすいメリットがある。

一方、認証をとっていないものは「非有機」かどうか分からないので、それらの方々とつながっていく機会があればありがたい。

子どもの食事に良いものを使う取組をしており、情報があれば良い農家から買いたい。

また、朝の時間に農家の方が配達するのは作業効率の関係で難しいとのことだ。

どういう仕組みがあれば、必要な食材がタイムリーに届くのか知りたい。

トータルで環境を守る取組を考えている。

◆情報の受け皿があれば生産者として情報を出していきたい。

溝辺町の地産地消の給食メンバーには入っている。

隼人町等も同様の枠があるそうだが、積極的に市が発信してほしい。

◆肥料も海外産が多く、消費者としては有機が進んだらよいと思う。

霧島市は給食に有機農産物が多く入っていることを、子どもや親に知ってほしい。

⑤ 補助制度・行政支援

◇環境保全型補助に関してデメリットや手間暇はあるか。行政に望むことは。

◆期待していた今年度の環境保全型給付補助金だが、前回より支給額が減った。

	前回	今回
補助金	16,000円	➡ 11,000円（認定あり）
	14,000円	➡ 9,500円（認定なし）

有機仲間が増えたことは嬉しいが、結果的に一人当たり補助金が目減りするのには苦しい。

最近、有機JASの登録者が増えたようだ。数10町歩規模の生産者が登録された。

ドリフト（周辺農地からの農薬飛散）防止のため、お茶農家が多数有機JAS認証を取得した。

霧島市はお茶の有機JASが強く、補助金はそちらに持っていかれるようだ。

意見交換での主な話題等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	◆補助を受けるため行政には日報での報告が必要である。 個人でなくグループで抜き打ち監査があるので、責任をもって日報を提出している。 ◆担い手支援事業に関して、最初の登録は補助が出るが、実際は毎年手続きが必要。 3町歩（約3ha）ぐらいの農地で毎年10万円ほど手続き費用がかかるため考慮してほしい。 JASをとっていれば監査も簡単化される。 ## ⑥ 地域農業の将来と地域資源の継承 ◆種サトイモを生産し、離島に送っている。 もともとは横川の黒葛原（つづらばる）地区で始まった集落営農の成功例で、県としても大切な産物と思う。（本土が種芋の生産地、離島で栽培） しかし、今は霧島市でも自分を含め2人ぐらいしかいない。横川はゼロになった。 このままなくなるのはすごく惜しいと感じている（産物、人の交流の両面で）。 ◆種イモは手間がかかっているのを知っているので、個人的にはやめて米を作った方がいいのではと思っている。 始良市は1枚の圃場で、例えば米と麦を栽培すれば交付金が両方もらえる。 霧島市はこのような重複交付ができない。 霧島市にも農業がやりやすい政策があれば、他の人に霧島市での営農をアピールしやすい。 ◇農業を生業としている市議が2名おり、生産者の皆様と共に改善を進めたい。 生産者、消費者の生の声を聴けて大変有意義な語ろかいであった。